

デジタル・情報活用能力に関する客観評価と主観評価の分析

北澤 武

東京学芸大学／教育テスト研究センター

本研究は「P プラス デジタル・情報活用力検定（株式会社ベネッセコーポレーション）」を用いて、大学生 71 名を対象に、デジタル・情報活用能力を測定した。さらに、下崎ら（2021）の情報活用能力に関する尺度を参考に主観評価を実施し、上記の客観評価との関係について分析した。その結果、P プラスの「情報社会の問題解決」に関する正答率は「新しい品物を購入する時は、インターネットで情報を収集する」と正の相関関係が認められたが、「人と話す時は相手が何を知りたがっているのか考えない方だ」「人前で発表する時、何も考えずに話し出すことが多い」の認識とは負の相関を示すことが分かった。

キーワード：CBT（Computer Based Testing）、デジタル・情報活用能力、客観評価、主観評価

参考文献

下崎高，萩原ほのみ，若月陸央，森下孟，谷塚光典，佐藤和紀（2021）オンライン授業を経験してきた教員養成学部生の情報活用能力に関する実態調査．日本教育工学会研究報告集，2021(1)，pp. 172-179